

## 編集後記

「哲学関係の院生の中で相互の対話と研究を一層促進させるために論文集を発刊しようではないか」（創刊号〈編集後記〉より）と先輩諸氏が話し合い、創刊号が昭和49年2月に発行されてから、『哲学論叢』は本号で17号を数えるに至りました。この間の諸先輩の御努力とその他多くの方々から頂いた御支援、御鞭撻に対して感謝の念を深くすると同時に、『哲学論叢』に対する期待に応えることの難しさと責任の重さを痛感しています。

なお、今年の特集は、前号までのように特定の哲学者を取り上げる形をとらずに、「こころの哲学」というテーマの下で、様々な論文を集め、その紹介を試みました。何卒忌憚のない御意見、御感想をお寄せ下さい。

1974年2月1日 第1号 発行

1990年7月1日 第17号 発行

定価 1,000円  
(本体 971円)

発行者 哲学論叢刊行会

〒606 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部哲学研究室内

TEL (075)753-2754

振替口座 第一勧業銀行百万遍支店 476-1105014

印刷所 協和印刷株式会社

〒615 京都市右京区西院清水町13

TEL (075)312-4010(代)

頁数	行数	正	誤
82	30	参照)。	参照。
84	14	浪費される代わりに	浪費されるに代わりに
88	註(1)	Beantwortung der Frage	Beantwortung der Frage
105	16	empirically equivalent	empirically equivalent
108	14	Reichenbach	Reichenbach
109	27	isotropy	isotropy
113	16	Grünbaum	Grünbaum
114	10	例としては知覚	例としてはには知覚。
129	28	中心課程の設定は	中心課程の設定は
134	1	援用して、	援用して、
138	14	現象	現象
141	頁21節	鬼界彰夫氏	鬼界彰夫氏
141	頁11節	お礼申し上げます。	お礼申し上げます。
143	頁11節	Spinoza's	Spnza's
144	8	Dieser	Dieser
146	頁6節	Hegels.	Hegles.
147	頁2節	korrigiert	Korrigiert
149	2	verstandene	verstanden

正誤表 『哲学論叢』 XVII号

頁数	行数	正	誤
6	23	representatur	representatur
6	24~25	この論駁に一応の答え	この論駁一応の答え
6	26	operatio intellectus	operatio intelectus
6	27	「表象的に (objective) 」	「表象的に (objective) 」
8	5	観念を表象的に解することとは	観念を表象的に解することとは
8	7	観念の表象的実在性によって	*
8	27	「前に (ob-)」	「前に (nt-)」
9	27	それ自身	それ自体
10	10	認識手段の助力	認識の助力
10	23	emitti	emitti
10	24	「大きな傾向性(magna propensio)」	*
11	8	観念の表象的実在性	観念の形表的実在性
11	11	は物体的観念であったが、	は物体的観念であったが、
11	11	それが観念の表象的実在性	それが観念の表象的実在性
11	註(4)	communes	communes
* 傍点がずれている。			
23	22	〔哲学 博士課程〕	〔博士後期課程〕
29	頁1節	普遍的な法則	普遍法な法則
30	頁1節	<どのように行為すべきか>	<どのような行為すべきか>

頁数	行数	正	誤
35	8	保護する	保護する
35	18	いうことになる。	言うことになる。
35	24	いうことを	言うことを
36	6	という	と言う
36	13	準備されており、	準備されており、
36	14	叙述される	叙される
36	26	私的「市民	私的（市民
38	11	敬辞をもたらし、	敬辞をもたらし、
38	13	いうことである。	言うことである。
38	21	客体的普遍性	客体的普遍性
38	29	依拠する圏域	位拠する圏域
39	1	いうことになる。	言うことになる。
39	4	いう点にある。	言う点にある。
40	12	統合するという点に	統合すると言う点に
40	17	「将来のことを	将来のことを
41	6	いような偶然	言うような偶然
41	11	ではその内在的原因	どはその内在的原因
41	12	生成したというのか。	生成したと言うのか。
41	24	「ただ自分自身の	「れだ自分自身の
43	10	国家であるが、	国家のあるが、
43	19	という言明を含意し、	と言う言明を含意し、

頁数	行数	正	誤
43	29	国家たる為には	国家たる為は
44	3	の領域と	の領域と
44	16	直接民主制	直指民主制
44	17	あるとされるのが	あるとてれるのが
44	23	持つものである。」	根つものである。」
46	4~5	従ってこういうこと	従ってこう言うこと
47	22	というのは	と言うのは
48	1	ヘーゲルはここで	ヘーゲルはここで
49	23	階級分化・階級支配を生み、	階級分化・階級支配を産み、
50	21	呑むことを	飲むことを
50	部22行	Band 1. S. 245f.	Band1. S. 245f.
53	2~3	真理としての神	真理として神
53	14~15	原因としてのヌース	原因としてヌース
59	10	義務についての確信	義務について確信
72	13	背景	背景
73	4	非倫理的態度に於る	非倫的態に於る
74	8	要案	要請
75	部52行	としての略記法	としての略記法